

< クローズアップ4月：中野区国際交流協会 >

市町村や地域に根を張って、国際交流や外国人支援を行っている国際交流

協会や団体を毎月1団体ずつご紹介します。今月は日本語教育に熱心に取り

組んでいる中野区国際交流協会にお邪魔し、常務理事の奥真理子さんと

日本語を担当している専門員の中山真理子さんにお話をうかがいました。

Q 中野区国際交流協会ならではの特徴や伝統はどんなところでしょうか。

A 設立から約20年ですが、日本語教室は当初から行っていて、活動の柱と言

えます。日本に長く住むであろう定住者を対象にしていること、日本語を教え

る区民のボランティアを育てていることが大きな特徴です。日本語

ボランティア実践講座の第1期生で、20年ずっと続けていらっしゃる方もいます。

毎週活動している日本語ボランティアは、120人を超えています。

Q 日本語ボランティアの方の養成にも独自のやり方があるとか。

A 他の機関で経験があっても日本語教育検定に受かっていても、当協会の3

か月の実践講座は必ず受けていただきます。模擬レッスンを通して、外国の方

にどう教えるのが効果的なのか身をもって学んでいく実践的な講座です。また、

ボランティアとして活動し始めてからも毎週必ず勉強会に参加していただ

き、指導のスキルを常に維持向上させています。

Q 中野区の在住外国人の現状はどんな様子でしょうか。

A 定住する外国人は増えており、国籍では中国、韓国・朝鮮、フィリピンと

いう順です。最近の課題は、他区でも同じだと思いますが学齢期の子どもたち

への日本語支援のニーズが非常に高まっていること。子どもたちは特に、日本語

だけ困っているわけではなく、学業や学校生活全般に様々な不安や問題を抱え

ています。しかし、言葉を習得すればそれらの多くが解消されるので、子ども

も日本語クラスを設けて活動しています。教育委員会の支援の一環として在籍

学校に日本語支援指導員を派遣してサポートすることも行っていますし、

中学生ならば学校長の許可が下りれば、学校の時間中に協会の日本語教室

で勉強もできます。

Q 中野区国際交流協会はボランティアの力が本当に大きいんですね。

A 様々な事業が、ボランティア登録してくださっている方の多彩な能力、特技

を生かした活躍で成り立っています。たとえば着物の着付けができる方に、

「^{しんしゅん つど}新春の集い」や「^{ゆうすず かい}夕涼み会」の^{い べ ん と}イベントで^{かつやく}活躍していただいたり。^{にほん なかの}日本と中野

を^す好きになってもらいたい^{きも}気持ち、^{たす あ}助け合っ^いて^{おも}生きていこうと思っ^てくださる

^{かた おお}方が^{なかのく}多いのが^{じまん}中野区の^{ねんかん}自慢です。1年^の間で、なんと延べ^{にんいじょう}5,500人以上の

^{ぼらんていあ}ボランティアが^{かつどう}活動しています。

^{なかのくこくさいこうりゅうきょうかい}
<中野区国際交流協会>

<http://homepage3.nifty.com/anic/>